

ベイジアンネットによる確率的情報処理システム

産業技術総合研究所 本村 陽一

確率的情報処理はいまやシステムとして実現し、実社会における様々な統計データから知識を抽出し活用する新しい技術的枠組みとして確立される段階に来ている。

本講演では産総研で開発したベイジアンネットソフトウェアを活用して実現した様々な人間の認知的なモデルやそれを活用して可能になる新しい情報サービスについても紹介した。

Novel Developments in Echocardiography

A. F. W. van der Steen

(Professor, Erasmus University Rotterdam, Netherlands)

開催日：平成17年11月10日（木）

開催場所：東北大学 工学部 電子・応物・情報系 451・453 会議室

概要：現在の心臓診断に必要な不可欠な心エコー法（心臓超音波断層法）に関して、その歴史と現状、さらに今後の展望について詳細な解説があった。現在の心エコー法では、心臓の2次元の断層画像および血流速度分布をリアルタイムに描出可能であり、医師はこれらの断層像から心臓の形態・動き・血流動態を観察して心臓の診断を行っている。このような情報を非侵襲的に得られる現在の心エコー法も大変有用であるが、心臓はその形状・動きが複雑なため、3次元断層像の描出など、なお要求は多い。本講演では、3次元心臓断層像など、最新の研究成果が紹介された。さらに、心臓疾患の主な原因である動脈硬化症の診断のために開発された、血管内超音波（IVUS）を用いた血管壁弾性特性計測法についても紹介があった。